

「重要な種」と「上位性の注目種」について

項目	動物 「重要な種」	生態系 「上位性の注目種」
目的	希少性の観点から「重要な種」に対する影響を評価	「上位性の注目種」に対する影響評価により、下位の生物を含む生態系全体への影響を評価
調査対象	下記に該当する種 ・種の保存法や文化財保護法の保護対象種 ・環境省や県のレッドデータブック記載種 等 【クマタカは種の保存法等に該当】	想定された食物連鎖の上位に位置する種 【クマタカは一般的に生態系の上位に位置する種】
予測 評価対象	調査範囲で確認された調査対象種 ()	・事業実施区域及びその周辺への依存性の高い種 調査すべき情報が得やすい種 等 ()
備考	・事業実施区域やその周辺への依存性が高なくても、調査範囲で確認されれば評価の対象	・「上位性の注目種」が現在と同じ状態で生息し続けるかどうかを見ることによって、その地域の生態系が将来にわたって現在と同じ状態を保てるかを予測するため、「上位性の注目種」は、現在その地域を主要な生息環境として利用していることが必要 ・予測 評価の手法がある程度確立していることが必要 *「事業実施区域及びその周辺」とは事業実施区域および事業実施区域から概ね500mの範囲 *「依存性の高い種」とは、営巣又は繁殖が確認されているなど、事業実施区域及びその周辺に定着していること

()「ダム事業における環境影響評価の考え方」(H12.3 河川事業環境影響評価検討委員会編集)より

「重要な種」と「上位性の注目種」について 【クマタカ】

項目		動物 「重要な種」	生態系 「上位性の注目種」
調査	範囲	事業実施区域から3 km程度の範囲を地形条件(尾根等)を考慮して設定	左に同じ
	方法	定点観察 (出現状況、個体識別、求愛行動、狩りに関する行動、営巣活動、幼鳥の行動等)	左に同じ
予測・評価	対象	調査範囲で確認された全ての個体 (つがい及びそれ以外(フローター等)の確認個体)	事業実施区域及びその周辺で 定着が確認されている(つがいである)個体
	方法	ダム事業による、 つがいの内部構造(コアエリア・繁殖テリトリー・幼鳥の行動範囲)への影響の程度 つがい以外の個体の生息環境の改変の程度 を予測 評価	ダム事業による、 つがいの内部構造(コアエリア・繁殖テリトリー・幼鳥の行動範囲)への影響の程度 を予測 評価
山鳥坂ダムにおけるクマタカの取り扱い		環境省レッドデータブック等に記載されており、調査範囲で確認されたので「重要な種」として予測 評価の対象とする	H9~ H18の調査結果に基づき、現在は事業実施区域及びその周辺にクマタカのコアエリア(主要な行動圏)は存在せず、定着していないと判断 「上位性の注目種」に位置付けたとしても、事業実施区域及びその周辺に、クマタカのコアエリアが存在せず、ダム事業による生態系の影響評価につながらないため、「上位性の注目種」の対象としない